



# チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

## 第23回「6月11～12日連邦公開市場委員会(FOMC)と 今後の米国金融市場動向について」

6月11～12日（米国時間）に米国の金融政策を決定する「連邦公開市場委（FOMC）」が開催されました。今週はこのFOMCの内容と米国金融市場動向についてお伝えします。

### ～FOMCでの決定事項～

今年4回目のFOMC（連邦公開市場委員会）が6月11日～12日にかけて開催されました。今回の会合では、政策金利の引き下げは行われませんでした。7会合連続で政策金利は5.25～5.50%となりました。同日午前中に発表された5月の米国消費者物価上昇率は3.3%と発表され、市場予想の3.4%より低い数字となりましたが、政策金利引き下げは行われませんでした。6月第1週に発表された5月の雇用統計（非農業部門雇用者増加数27万2千人、市場予想19万人増加）が予想以上に堅調であったため利下げの判断とはならなかったようです。

### ～FOMC参加理事の経済・政策金利予測～

今回のFOMCでは3月に続きFOMCに参加した理事の方々の「経済・政策金利予測」が発表されています。今回発表された「経済・政策金利予測」を見てみましょう。表1をご覧ください。参加理事が予測した各年末の平均値が掲載されています。カッコ内は前回3月の数値です。前回との変化を確認します。まず、政策金利ですが、前は4.6%でしたが、今回は5.1%（5.00-5.25%の中央値）となりました。現在の5.4%（5.25-5.50%の中央値）から0.3%少ない数字ですので、年内の引き下げは1回と予測する理事が多かったことを示しています。今年は11月5日が米国大統領選挙の投票日となっているため、選挙への影響を勘案し、選挙後の引き下げの可能性が高くなりました。11月もしくは12月のFOMCでの政策金利引き下げになると予想されます。来年25年は4.1%、26年は3.1%との予測となっており、来年以降は1年間で4回の利下げを予測しています。利下げ回数としては3年間で9回となり、前回と同じ予測となっています。

次に物価上昇率である「コアPCE上昇率」ですが、今年末の予測は2.8%と前回と比べて0.2%Pt上方修正されています。25年も2.3%と前回比で0.1%Pt上方修正されています。このようにインフレ沈静化に暫く時間がかかると判断したことが、政策金利の高め維持を継続する要因になったと思います。一方、米国経済成長率の予測は、24年が2.1%、25年が2.0%、26年が2.0%と前回と同じでした。失業率の予測は24年が4.0%と前回と同じでしたが、25年が4.2%、26年が4.1%と前回予想よりそれぞれ0.1%Pt上方修正されました。高めの政策金利を維持する期間が長くなり、失業率は若干上振れすることを予測しています。

## ～今後の市場動向について～

FOMCで高めの政策金利は維持されましたが、パウエル議長の記者会見では金融政策についてハト派的な発言が多く、金融市場が好意的に受け止めたことや、FOMC当日に発表された消費者物価上昇率が予想ほど上昇しておらず、インフレ鎮静化のスピードが速まると考えられたこと（市場参加者の一部は9月から政策金利は引き下げられると想定）などから、長期金利は低下し、成長銘柄の多いNASDAQ総合指数は上昇し、史上最高値を更新しました。一方NYダウ工業株30指数は、今後の景気鈍化懸念などから上値の重い展開となりました。成長企業の株価上昇と景気敏感株の軟調の動きはまだ暫く続くと考えられますが、市場は景気鈍化懸念を相当程度織り込んできていると考えます。今後の注目点としては、市場の想定通りインフレ沈静化のスピードが上がるのか、また米国景気の鈍化、後退が起こるのかが挙げられます。これらの点に注意し市場動向の変化を見極めていきたいと思えます。

これからのFOMCの開催予定日は、7月30～31日、9月17～18日、11月6～7日、12月17～18日（すべて米国時間の日程）です。

表 1				
FRBメンバーの経済・政策金利予測【2024年6月】				
カッコ内は前回見通し、単位は%				
	2024年	2025年	2026年	長期
政策金利	5.1 (4.6)	4.1 (3.9)	3.1 (3.1)	2.8 (2.6)
実質GDP成長率	2.1 (2.1)	2.0 (2.0)	2.0 (2.0)	1.8 (1.8)
失業率	4.0 (4.0)	4.2 (4.1)	4.1 (4.0)	4.2 (4.1)
コアPCE上昇率	2.8 (2.6)	2.3 (2.2)	2.0 (2.0)	

(FOMCより西村証券作成)